

十和田市立 新渡戸記念館だより

新渡戸稲造 著作紹介

▶表紙は新渡戸家の家紋「月星」
明治44年実業之日本社より初版



◀箱の版画は「鯉の滝登り」



～人としての生き方を 実践的に説く書～ 『修養』

新渡戸稲造は明治41年(1908)「実業之日本社」の編集顧問をひきうけ、毎月2回同誌に修養講話を連載していました。その連載をまとめたものが『修養』です。人生において持つべき心構えが述べられており、最終章(第十七章)は「迎年の準備」で締めくくられています。この機会にぜひご一読下さい。

■ 日々の務めを修養の場として

本書は「職業の選択」「決心の継続」「勇気の修養」など人生の様々な場面における気の持ち方、考え方を稲造が自らの体験を例にあげてわかりやすく述べた実践的な書で、「読書法」や「黙思」「暑中の修養」など、極めて具体的な生活の送り方についてふれています。稲造は「修養」を「心を主として身を修め、その主となる心を正道に従い養育すること」と定義し「日々の平凡な務め」が修養の場であり、その務めをおこたる者は、大難題に出会うと狼狽し、策のでるところを失なうとしています。教育者として国際人として、稲造が残した足跡を思うとき、この言葉に大きな説得力が感じられます。



◀『実業之日本』第三十巻第十五号
昭和2年(1927)8月1日発行

■ 通俗的と批判を受けながらベストセラーに

当時は学者が積極的に社会にかかわることを良としないう時代であり、一高校長や東京帝大教授をつとめていた稲造が「実業之日本」に執筆することについても、通俗的と批判されることが多かったようです。稲造はその批判について友人・佐伯理一郎への明治42年(1909)6月28日付書簡にこう記しています。「僕が実業之日本に関係せるは果して如何なる動機なりしかは僕の身辺を知るものはよく理解す。ああ君、未知未見の人々より謝辞感謝の言を得れば自ら理解すべし。山深き寒村の少女、都会の最中に迷う男子等が一人二人十人二十人、僕の拙論を読んで失望の間に気をとりのおし、罪の生涯を止めて光明に赴き、前非を悔いる等の書面を送りて呉れる、すれば新聞屋などの悪口は何の痛みも僕に与えぬとただただ神に感謝するよりは外ない」この心で続けた執筆活動により、『修養』は明治44年(1911)の出版から昭和5年(1930)までに141版を数える大ベストセラーとなりました。

2001年12月31日～2002年1月1日

元朝参りは太素塚へどうぞ!!

★甘酒&お神酒の
無料サービスもあります★

新渡戸記念館所蔵・^{みょうちん}明珍派甲冑が
学研 M 文庫『日本名匠列伝』表紙に

全国の有名な刀鍛冶、甲冑師の伝記をまとめた学研 M 文庫『日本名匠列伝』の表紙に、当館所蔵の戦国時代甲冑・明珍勝正作兜と伝明珍信家作鎧の写真が掲載されました。その切れ味から妖刀と呼ばれる刀をつくった刀工・村正や「眠り猫」で有名な大工・左甚五郎をはじめ明珍派中興の祖である甲冑師・信家などがその伝説とともに紹介されています。詳しくは同社ホームページ「学研 M 文庫バーチャル書店」をご覧ください。 <http://www.gakken.co.jp/m-bunko/index.html>



『日本名匠列伝』江崎俊平・志茂田誠諦 著 ▶
学研12月11日出版（本体価格700円・税別）
巻末に名匠全50人の略歴を記した「名匠小伝」を収録
（右の表紙 写真は学研M文庫ホームページより転載）

♥ 5年生の時に、一回だけ来たことがあるけど久しぶりに入ったらかわりなくてとてもイイ感じだった。歴史に興味を持って二回目になるけど資料などもたくさんあり、知らないことをたくさん学べてとても勉強になる。辺りが、静かでとてもイイ感じ。また来たい!!
(12年3月4日/三本木小学校6年 Hitomi さん)

◆ 娘がこちらの大学で学んでいるので、別府から銀婚式の旅行をかねてやって来ました。大きな公園が数多くあり、またこの記念館も敷地が広く、緑多い風景に感動しました。(12年5月14日/大分県民さん)

◆ 当時の南部領の広大さに驚いた。にもかかわらず、貧困にあえいだ人々の心情などが、少しばかり解るような気がする。新渡戸一族を中心とした当時の開拓者魂を見ることができて、とても勉強になりました。また、ルーツのことにも関心が持てたのも、良かったと思います。私の母の母方は、坂東八平氏の一で三浦氏族津久井氏の出と聞いております。自分のアイデンティティを知ることは、生きる意味を悟らせてくれます。(12年3月26日/H・Eさん)

♣ 私は十和田の町並みを初めて見ましたが実に美しく陰にこのような人の努力があったことを全く知りませんでした。これからもこの様相を守るよう一人一人が頑張ってください。(12年8月/十和田市外から来館の方)

平成12年～13年
館内感想ノートから
来館者からよせられた感想の一部をご紹介します。

♥ 新渡戸稲造先生のことをより知りたいと思い岡山よりここまで足を運びました。この十和田に住む人々は私よりずっと前に先生のことを学びとてもうらやましい限りです。私も将来は先生のように世界で自国の文化を残しつつ活躍、そして役に立てたらと思います。(13年3月15日/岡山県民さん)

♣ 今日は、本当に来てよかったです。コンピュータとかで、見て、よくわかりました。お父さんや、お母さんもじっくり見て、私も、久々にじっくり見て、勉強しました。外にある、像は本物の人のようでみんなすごーい!などとかんしんしていました。とても勉強になりました。



(12年4月23日/A・Yさん)

◀新渡戸記念館外の銅像三体

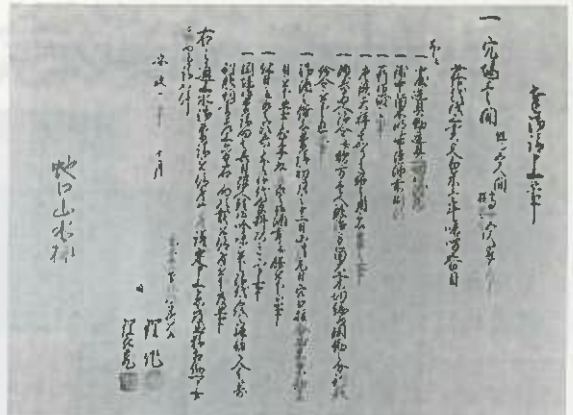
◆ ここへ来るのは二度目ですが、子供の時は歴史だの何だの全く興味がなくつまらないと思っていました。今、大人になってもう一度来てみて、十和田市について様々なコトを学びました。十和田市にいるのはたぶん今年で最後だと思います。(来年からは就職のため他県へ行く予定)しかし!!また、いつか十和田市に来たいと思います。(…実家があるから絶対来ますけど)あー五千円札ほっしー!! 10枚ぐらい。
(13年10月26日/十和田市民さん)



八戸市・蛇口家所蔵資料より

三本木原開拓の工事技術者と 蛇口伴蔵が取り交わした工事請負書

11月1日～5日に八戸藩士蛇口伴蔵の子孫・蛇口剛義さんが八戸市内で所蔵品の展示会『蛇口伴蔵展』を開催しました。22歳～46歳まで「商人侍」と噂されながらも蓄財に励み、下洗用水・階上岳用水の事業を行った蛇口伴蔵にかかわる資料が多数展示されましたが、その中から三本木原開拓の工事技術者と蛇口が取り交わした工事請負書を紹介します。



▲工事請負書「奉御請申上候事」(安政5年10月)

■ 蛇口伴蔵と三本木原開拓のかかわり ■

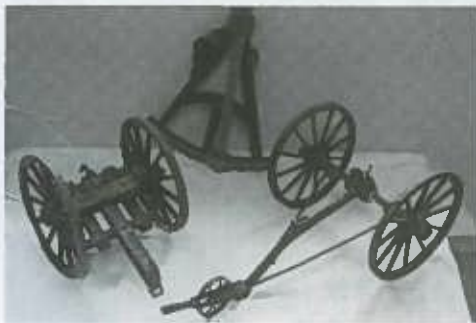
安政4年(1855)9月蛇口伴蔵は新渡戸十次郎に対し三本木原開拓への出資を約束し、そのかわり蛇口の計画する下洗用水の工事に三本木原の水路工事を請負った技術者たちを借りうけることとしました。『三本木開拓誌』によると安政5年には稲生川の水路工事に平行して八戸での測量が行われ、安政6年10月工事の許可が藩より下りると、土工頭取の理喜蔵・理作を請負人として工事請負書が取り交わされました。蛇口家に残る請負書からは、人足のほか工事道具も借りうけて工事を行ったことがわかります。また、人足の給与は基本的に能力給で支払われますが、一部の技術者で行うという穴堰工事については、給与の他に掘った穴堰の長さから算出する工事代金が支払われていたことがわかります。

■ 穴堰工事の代金は？ ■

工事請負書によると高さ5尺(約150cm)、幅4尺(約120cm)の穴堰一間(5尺)を掘る代金を銭3貫文(当時6貫800文=1両)、白米1斗、味噌500匁としています。また穴堰工事がほぼ終了したとの報告を受けた十次郎から、万延元年(1860)4月20日付で蛇口に書簡が送られていますが、それによると岩盤部分80間については工事が難航したので1間につき2%ずつの代金上乘せを願っています。その通りの支払が行われたとすると、下洗用水では約500m(333間)の穴堰が掘られましたので、穴堰工事に対しては約147両、米33石(約5t)、味噌167貫(627kg)が支払われた計算となります。頭取や小頭は月給の他に、技術料として穴堰工事代をもらったと考えられます。



◀ 蛇口伴蔵の利水事業にかかわる資料の他、狩野探信(探幽の長子)の軸をはじめとする蛇口家伝来の書画、工芸品も多数展示されました。



▶ 蛇口伴蔵が水路工事に使用した測量具。三本木原開拓にも同様の測量具が使われていたと考えられます。

新渡戸稲造全集が増補復刻されました

㈱教文館から11月15日新渡戸稲造全集が全23巻別巻2として増補復刻されました。新渡戸稲造全集は全16巻の出版が昭和45年(1970)に完結、さらに8冊を加えた全23巻別巻1の出版が昭和62年(1987)に完結しました。この度新たに加えられた別巻2には、配本毎に各巻につけられた月報を主題別に編集したものと、全集刊行後に発見された新資料などが収録されています。

(全巻揃いセット価格・税別140,000円/別巻2のみ分売・税別8,300円)

全集PRパンフレット▶



ありがとうございました

10月～11月にかけて市内在住の瀬川安雄さん・杉山豊美さんより厚物（多弁でまり状の大菊）や一文字（一重の大菊）などの鉢植えを記念館入口に出品いただき、来館者の目を楽しませました。



関連情報

●太素塚清掃奉仕

- 10/14 三小学区青少協・同子供会育成会共催親子清掃奉仕
- 11/3 ちいさな親切運動十和田支部清掃奉仕
- 11/4 本瀬戸山老成会 皆様ありがとうございました

●新渡戸稲造五千円札肖像の写真を雑誌各誌で紹介

国際経済交流財団発行英文誌『Journal of Japanese Trade & Industry』（12月25日発行）のコラム「新渡戸稲造と武士道」（関西外語大学・佐藤全弘教授）、ならびに鳥根・鳥取両県のタウン情報紙『タウン情報 Lazuda』12月号（11月25日発行）特集「五千円札を考える」へ、当館より五千円札肖像の元となった写真を提供しました。

●NHK・BS ミニ番組「諸国おもしろ人物記」で新渡戸稲造を紹介

NHK・BS2『おーい、ニッポン 今日ほとんどん岩手県』の関連ミニ番組「諸国おもしろ人物記」（10月4日放送）で、岩手県出身の偉人の一人として新渡戸稲造が紹介され、当館から新渡戸稲造の写真数枚を提供しました。

●ダニエル・カールさん来館

11月20日十和田市文化講演会「地球にやさしい街づくり～環境問題とエネルギー～」(十和田市民文化センター)のため来市されたダニエル・カールさんが当館に立寄られました。



●10月1日～11月30日の来館小学校

<十和田市>三本木小学校/上切田小学校/洞内小学校
藤坂小学校<八戸市>桔梗野小学校/白銀南小学校/根岸小学校/轟小学校/新井田小学校<三沢市>岡三沢小学校<六戸町>六戸小学校/開知小学校/折茂小学校<上北町>第一小学校<東北町>蛭沢小学校<天間林村>東小学校<五戸町>切谷内小学校/南小学校<平内町>小湊小学校<田子町>田子小学校<階上町>石鉢小学校

活動報告

●11月6日～9日三本木中学校

2年生職場体験学習「三中トライやるウィーク」の生徒2名受け入れ。



記念館での仕事を体験した生徒。▶
左から端本拓郎くん、柴田寿也くん。

●館長講演会

7/4十和田工業高校教職員校内研修会(十和田工業高校視聴覚室) 9/4三本木小学校・総合的な学習の時間(三本木小学校杉の子大ホール) 11/27十和田市消費者の会創立30周年記念講演(十和田市文化センター) 12/14 2001年・青森ユネスコ講演会(ホテル青森)

●全国博物館大会に館長出席

11月15・16日千葉市で開催の第49回全国博物館大会に館長が出席、「博物館はいかに社会公共の利益に寄与できるか」をテーマとして議論が行われました。



●青森県立郷土館新展示室へ記念館資料を貸出

12月21日より県立郷土館に新設される展示室「輝いた郷土の先人たち」に、当館より新渡戸傳にかかわる資料4点を貸出しました。6ヶ月毎に別の資料と入れ替えて貸出す予定です。

〈編集後記〉

21世紀最初の年の最終号を発行することができました。混迷する時代にあって稲造博士の著書は再び光を放っているように感じます。どうぞ良いお年を迎えられますようお祈りいたしております。

発行 太素顕彰会

十和田市立新渡戸記念館

☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1

TEL (FAX) 0176-23-4430

E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp

http://www.towada.or.jp/nitobe/

印刷 有限会社 岩間印刷所